



HYPERION

取り扱い説明書
(株)アンブレラカンパニー

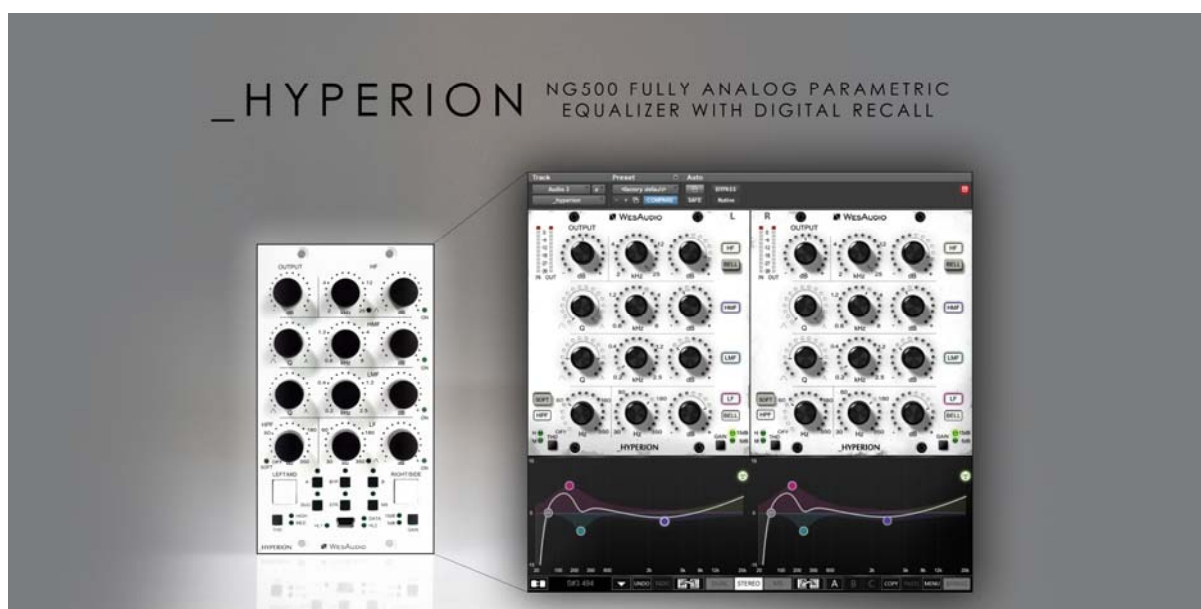
www.umbrella-company.jp

* この取扱説明書は株式会社アンブレラカンパニーが正規に販売する製品専用のオリジナル制作物です。
無断での利用、配布、複製などを固く禁じます。

WesAudio _HYPERION オーバービュー

_HYPERION (ハイペリオン) は、完全なアナログ回路で構成された、パラメトリック・イコライザーです。多くの革新的な機能を搭載し、+24dB のヘッドルームを獲得しています。各チャンネルには 18 個もの VCA を配し、ノイズレスなパラメーター・チェンジと、たいへん音楽的なイコライジングを可能にしています。

_HYPERION は、WesAudio が提唱した API500 モジュール互換「ng500」の規格に対応しており、本体の USB または **_TITAN 電源ラック** 経由で、DAW 上のプラグインからのコントロールやデジタル・リコールに完全対応いたします。



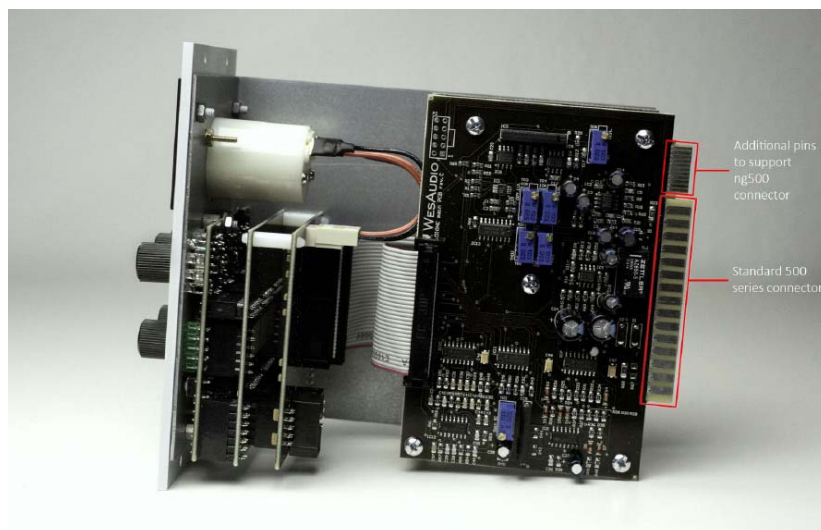
設置とコンパチビリティ

WesAudioの_HYPERIONはAPI500シリーズ（APIアライアンス）用のモジュールです。単体では使用できませんので、必ずAPI500シリーズ互換の電源ラックにマウントしてご使用ください。WesAudioの_TITAN電源ラック(ng500互換)も使用できます。

重要な注意事項

- ・ラックに_HYPERIONをセットアップする場合は、モジュールにダメージを与えないために、完全に電源を抜いた状態で行ってください。またラックネジは通常ご購入される電源ラック側に付属しています。
- ・本機は必ず5分ほど電源をつけた状態でウォームアップしてから使用してください。各バンドの周波数やゲイン、Q設定が安定します。
- ・設置の際には本機の上と下にスペースを設け、エアサーキュレーションを確保してください。ラック設置の際は上下1Uずつブランクとすることを推奨いたします。

モジュールの設置について

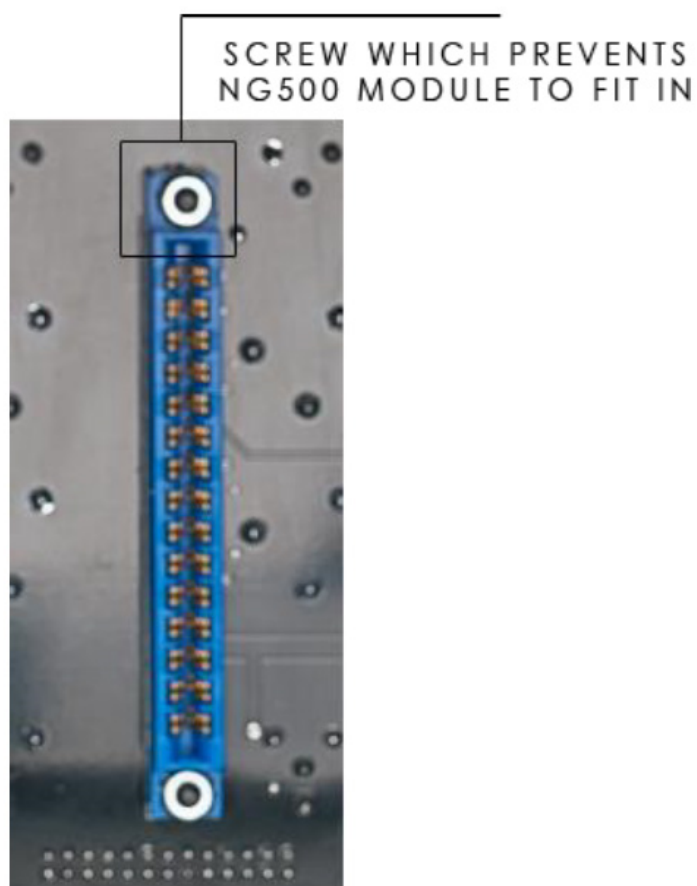


ng500(Next Generation 500)では、標準のAPIモジュール共通のコネクターの上に専用のng500コネクターが装備されています。ng500対応の電源ラックである_TITANなどを利用すると、このコネクターによりGConプロトコルを通信できるようになり、設定のリコールなどの情報をやりとりできます。

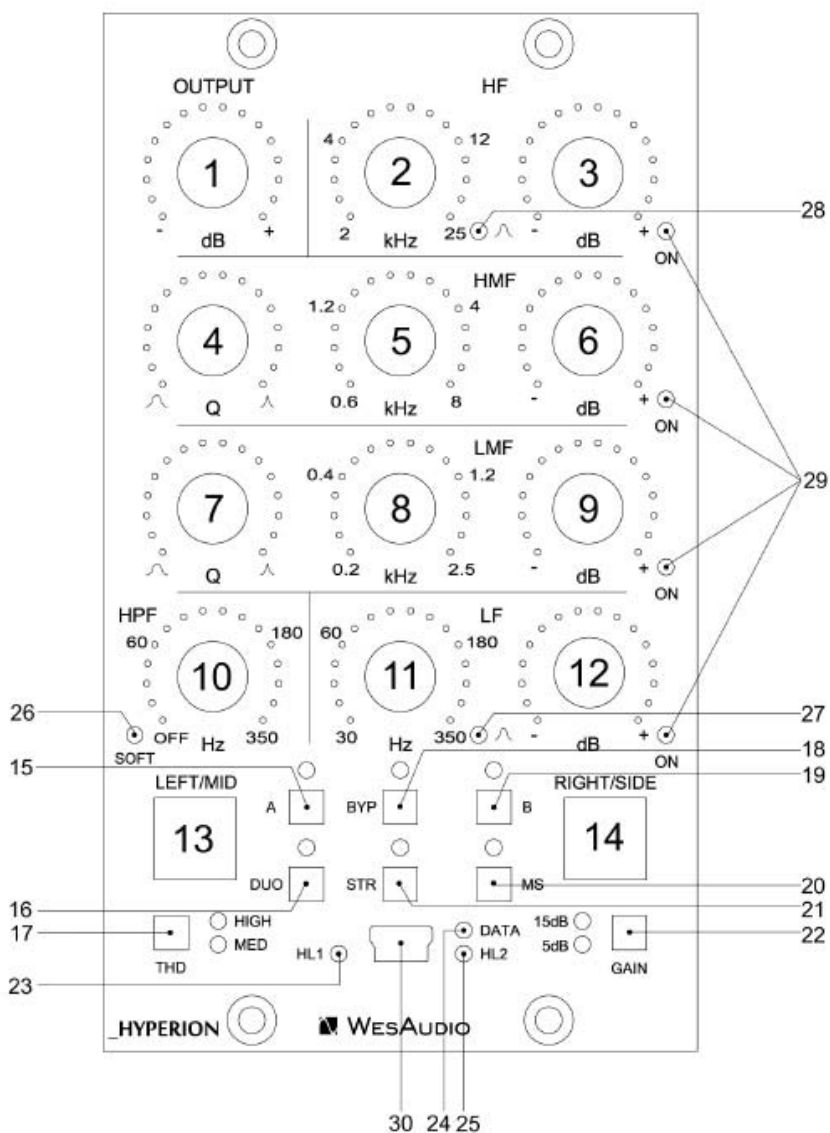
以下の API500 互換ラックでご使用になりたい場合には、必ず事前にご相談ください（そのままでは挿すことが
できず対応が必要です）。

- Rupert Neve Designs 500 series Rack
- Aphex 500 series Rack
- 旧型の BAE Rack

*大抵のケースでは電源ラックの-slot 上側のねじを外すことで WesAudio の ng500 モジュールを挿入する
ことができます。



フロントパネル



- 1) OUTPUT - 出力レベルのコントロール
- 2) HF Frequency - 高域の周波数コントロール
- 3) HF Gain - 高域のゲインコントロール
- 4) HMF Q - ハイミッド帯域のQコントロール
- 5) HMF Frequency - ハイミッド帯域の周波数コントロール
- 6) HMF Gain - ハイミッド帯域のゲインコントロール
- 7) LMF Q - ローミッド帯域のQコントロール
- 8) LMF Frequency - ローミッド帯域の周波数コントロール

- 9) LMF Gain - ローミッド帯域のゲインコントロール
- 10) HPF Frequency - ハイパス・フィルターの周波数コントロール
- 11) LF Frequency - 低域の周波数コントロール
- 12) LF Gain - 低域のゲイン
- 13) LEFT/MIDボタン - ボタンを押すとLEFT/MIDチャンネルをフロントパネルに表します。また+25dBu出力時には赤く点灯しクリップを知らせるクリップインジケータを兼ねています。
- 14) RIGHT/SIDEボタン - ボタンを押すとRIGHT/SIDEチャンネルをフロントパネルに表します。また+25dBu出力時には赤く点灯しクリップを知らせるクリップインジケータを兼ねています。
- 15) Aボタン - プリセットAを呼び出します
- 16) DUOボタン - デュアル・モノ・モードに切り替えます
- 17) THDボタン - THDレベルをOFF、HIGHまたはMIDで切り替えます
- 18) BYPASSボタン - バイパス・スイッチ
- 19) Bボタン - プリセットBを呼び出します
- 20) MSボタン - mid-sideモード(MSモード)を有効にします
- 21) STRボタン - ステレオ・モードを有効にします
- 22) GAINボタン - ユニットのゲインモードを切り替えできます。すべてのバンドのゲインコントロールとアウトプットコントロールに影響します。
 - a) 15dBのカット&ブースト、0.25dBステップ精度でのコントロール
 - b) 5dBのカット&ブースト、0.083 dBステップ精度でのコントロール
- 23) HL1 - ホストへのLEFT / MIDの接続状態を示します。プラグインがこの特定のチャンネルに接続されている場合、このLEDが有効になります
- 24) DATA - DAWなどからデータが送られているときにこのLEDが点灯します
- 25) HL2 - ホストへのRIGHT/ SIDEの接続状態を示します。プラグインがこの特定のチャンネルに接続されている場合、このLEDが有効になります
- 26) SOFT - HPFモード(6dB per octave)の有効を示します
- 27) LF BELL - 低域のEQモードを示します。点灯はEQが「ベルモード」であることを示し、消灯は「シェルビングモード」であることを示しています。これらのモードを切り替えるには、LFの周波数(kHz)エンコーダーをプッシュしてください
- 28) HF BELL - 高域のEQモードを示します。点灯はEQが「ベルモード」であることを示し、消灯は「シェルビングモード」であることを示しています。これらのモードを切り替えるには、LFの周波数(kHz)エンコーダーをプッシュしてください
- 29) Band Bypass LEDs - それぞれの帯域バンドは個々にバイパスすることができます。これらのLEDはその状態を示します。LEDが点灯している時にはそのバンドはアクティブであることを示しています。それぞれのバンドのバイパスを変更するには各バンドのゲイン・エンコーダーをプッシュしてください
- 30) USBソケット - USBポートに接続します

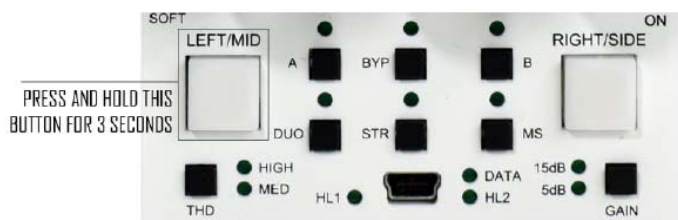
フロントパネルの特別な機能について

_HYPERIONは、ユニットをスタンドアロンモードで使用するとき（プラグインが接続されていない場合）に役立ついくつかの機能を搭載しています。

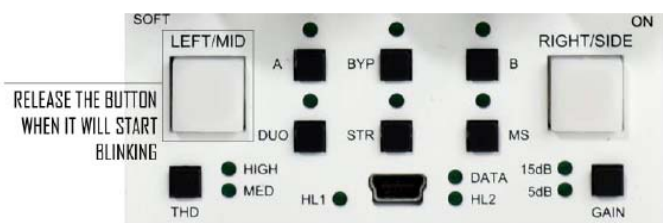
チャンネル・コピー

チャンネルの設定をコピーすることが可能です。以下の例では、LEFT/MIDチャンネルの設定を、RIGHT/SIDEチャンネルにコピーする場合の操作を示しています。

最初にLEFT/MIDボタンを約3秒間長押しします。

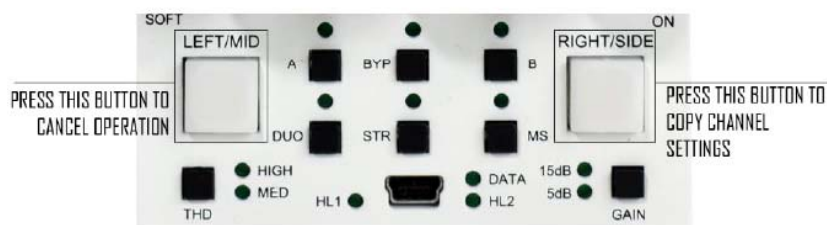


LEFT/MIDボタンが点滅しはじめたら、ボタンから手を離します。



もしキャンセルしたい場合はLEFT/MIDボタンをもう一度短く押します。

RIGHT/SIDEを押せば、設定はコピーされます。



プリセット・コピー

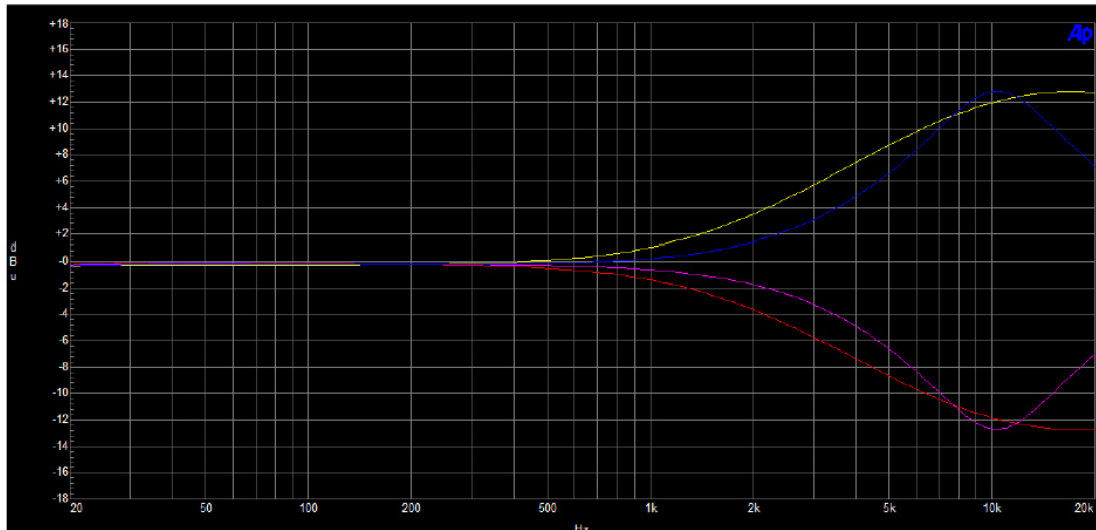
AまたはBのプリセットも上記のチャンネルコピーと同じ要領で行うことができます。

製品仕様

- Frequency response: 10Hz-150kHz (-2dB)
- THD+N all bands gain "0": 0.003% (1kHz,0dBu)
- THD+N +15dB band boost: <0.15% (1kHz,0dBu)
- Input impedance: 10kohm
- Output impedance: <100ohm
- Max signal level: +24dBu
- Crosstalk:< -100dB
- THD (MID switch): 1%
- THD (HIGH switch): 2.5%
- Power consumption: 150mA per rail
- Dimensions : 76x133x158mm
- Unit needs to warm up for about 5 minutes before usage as its temperature may affect some internal variables – like frequencies of each band, and very slightly gain and Q settings.
- Each band can boost or cut in configurable gain mode (It affects also OUTPUT control):
 - 15dB boost or cut in 0.25 dB steps,
 - 5dB boost or cut in 0.083 dB steps,
- Each frequency control has predefined amount of steps in logarithmic scale:
 - HF frequency – 256 steps,
 - HMF frequency – 256 steps,
 - LMF frequency – 256 steps,
 - LF frequency – 200 steps,
 - HPF frequency – 128 steps

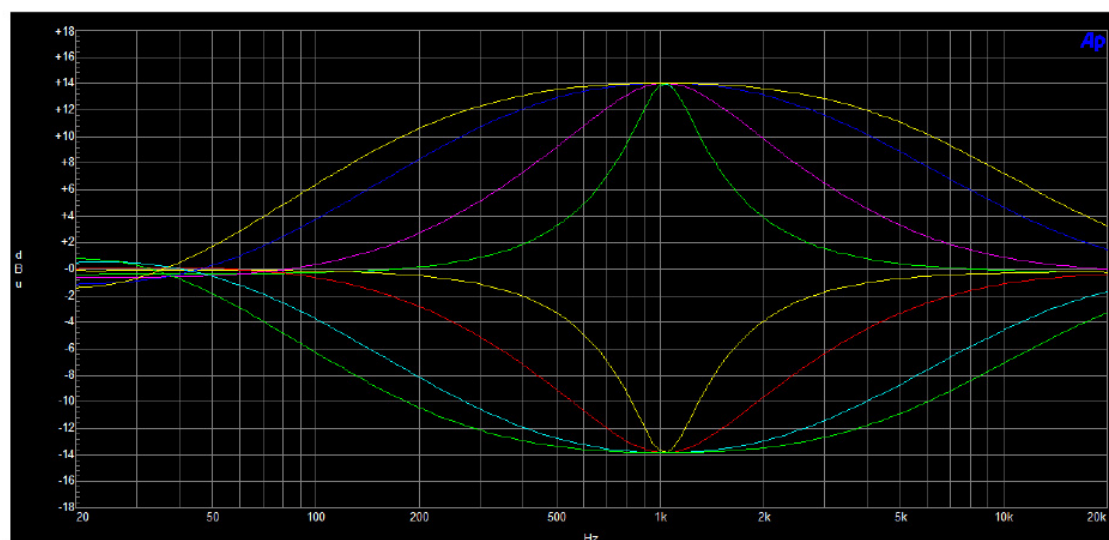
Curves

HF – high filter



- 1) **YELLOW** - 周波数10kHz, +15dBブースト, シェルフ・モード
- 2) **RED** - 周波数10kHz, -15dB カット, シェルフ・モード
- 3) **MAGENTA** - 周波数10kHz, -15dB カット, ベル・モード
- 4) **BLUE** - 周波数10kHz, +15dBブースト, ベル・モード

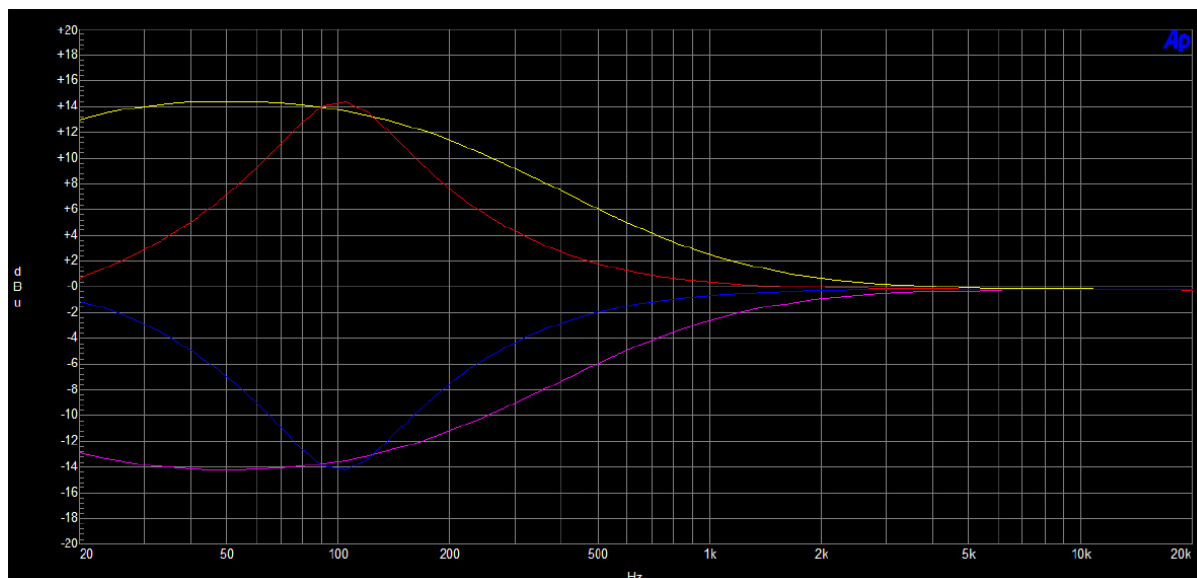
HML & LMF – high-mid filter、low-mid filter



HMFとLMFフィルタは似ていますが、異なる周波数範囲を持ちます。

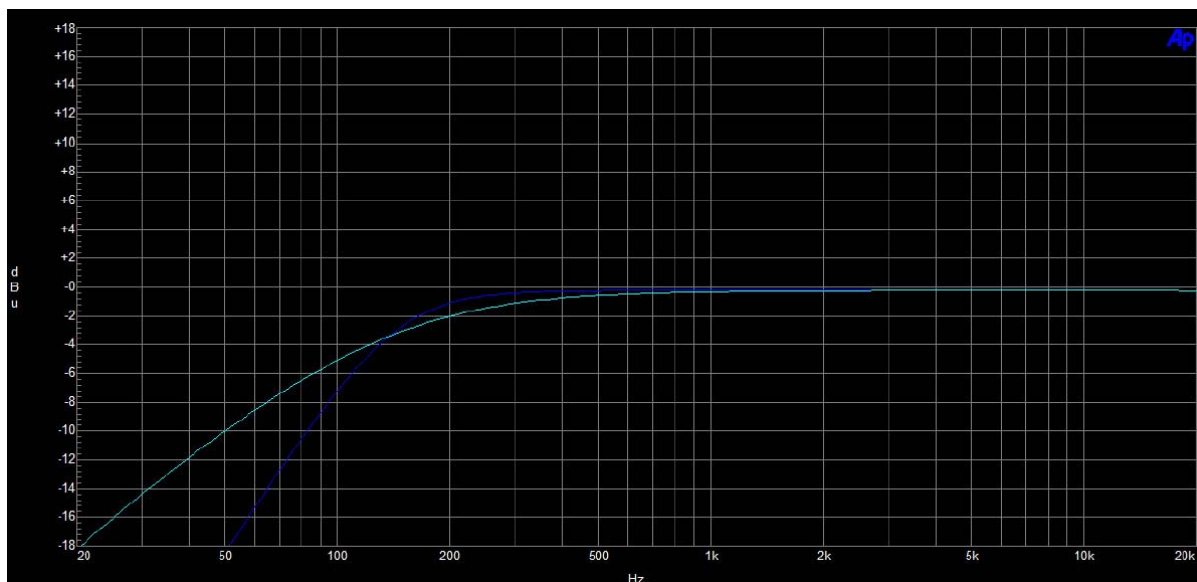
このグラフは、1kHzの周波数に対して異なるQ値とゲイン値を示しています。各カーブは、+15dBのブーストまたは-15dBのカットのいずれかで行われます。最も広いQ値は0.2で最も狭い3.2です。

LF –low filter



- 1) **YELLOW** - 周波数100Hz, +15dBブースト, シェルフ・モード
- 2) **RED** - 周波数100Hz, -15dBブースト, ベル・モード
- 3) **MAGENTA** - 周波数100kHz, -15dB カット, シェルフ・モード
- 4) **BLUE** - 周波数100kHz, +15dB カット, ベル・モード

HPF –high pass filter



- 1) **BLUE** - 周波数150kHz, 12dB/Oct (Normal Mode)
- 2) **CYAN** - 周波数150kHz, 6dB/Oct (Soft Mode)

ユニット・モード

_HYPERIONは、以下の3モードで駆動することができます。

- DUAL MONO - 各チャンネルは個々のユニットとして駆動、それぞれのチャンネルはリンクしません。
- STEREO - 各チャンネルリンクしてステレオ・オーディオ信号をプロセッシングできます。
- MID-SIDE - 信号はミッド信号とサイド信号にエンコードされ、回路の最終段でステレオへとデコードされます。ミッドとサイド信号のチャンネルにセパレートしてコントロールすることができます。

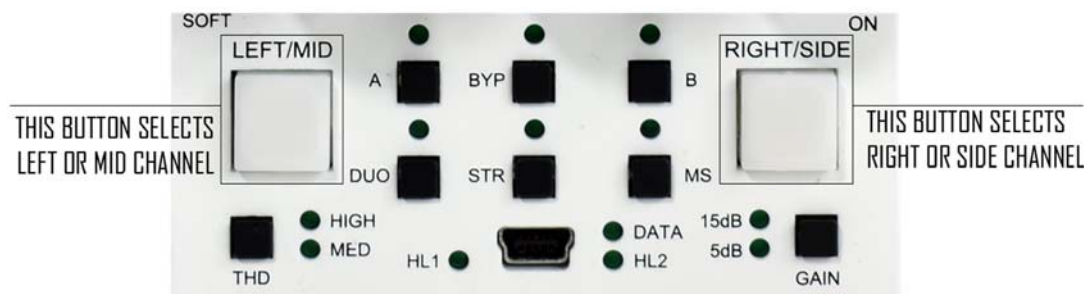
上記のモードにかかわらず、_HYPERIONは以下の方法で使用できます：

- STAND ALONE - USBまたは_TITANシャーシなどと接続されておらず、デジタルプラグインまたは他の制御アプリケーションを使用していない場合には、本機はスタンドアローンのアナログユニットとして使用できます。
- PLUG IN との接続 - ユニットのトータルリコールとリモートコントロールを可能にするプラグインに接続して使用できます。

ユニットをスタンドアローンで使用する

スタンドアローンは、フロントパネルのノブやボタンでコントロールできる、標準的なアナログユニットとして使用が可能です。

DUAL MONOとMID-SIDEモードの時は（下の表を参照）、フロントパネルのボタンLEFT / MIDとRIGHT / SIDEを使って、希望のチャンネルを選択することができます。STEREOモードの時は常に両方のチャンネルが選択された状態になります。



Below table describes unit behavior:

Mode	Management - A/B and Bypass	Channels
Dual mono	Global mode	Unlinked mode
Stereo	Global mode	HW Linked mode
Mid-Side	Global mode	Unlinked mode

前項の表にある「Management」は、ユニットが「A/B ボタン」と「Bypass ボタン」にどのように反応するかを定義します。

Managementの説明

Global mode - A / Bまたはバイパスを押すたびに、現在選択されているチャンネルに関係なく、両方のチャンネルが影響を受けます。

Channelsの説明

Unlocked mode - LEFT / MIDとRIGHT / SIDEチャンネルが完全に独立していることを意味します。このモードでパラメータの値を変更するには、チャンネルを選択してから、パラメータを変更する必要があります。選択されたチャンネル構成のみが実際に変更されます。

HW Linked mode -スタンドアロンで使用していて、ステレオモードのときにのみアクティブになるモードです。現在選択されているチャンネルがマスターチャンネルになり、そのすべてのパラメーターが両方のアナログチャンネルに適用されることを意味します（そのため、両方のチャンネルボタンが選択されています）。各パラメーターがフロントパネルから変更される度に、両方のアナログ回路（両方のチャンネル）が同時に変更されます。

重要なことは、現在選択されているチャンネルメモリーだけが実際に影響を受けることです（ステレオボタンが押されて不意にチャンネルメモリーがコピーされることを防ぐためです）。ステレオモード（デュアルモノモードまたはMSモードのいずれかを有効にしている場合も）で変更した後、チャンネルがリンク解除されると、現在選択されていないチャンネルは前のメモリー状態に戻ります。ユニットのフロントパネルの操作でチャンネルをコピーする方法については、「フロントパネル」の章を参照してください。

ユニットをプラグインと一緒に使用する

この章では、_HYPERIONをプラグイン・ソフトウェアと一緒に使う方法を説明いたします。

Plugin type	Mode	A/B and Bypass	Channels
Stereo	Dual mono	Global mode	Unlinked mode
Stereo	Stereo	Global mode	SW Linked mode
Stereo	Mid-Side	Global mode	Unlinked mode/SW Linked mode
Mono	Dual mono	Split mode	Unlinked mode

(1) **重要な注意事項**： MONOプラグインの接続時には、常に「デュアル」モードが有効になります。

「Management」(A/B and Bypass) は、ユニットが A / B ボタンと Bypass ボタンにどのように反応するかを定義します。以下のオプションがあります。

Global Mode - A / B またはバイパスのいずれかを押すたびに、現在選択されているチャンネルに関係なく、両方のチャンネルが影響を受けます。プラグインには、各チャンネルごとに別々のボタン (A / B とバイパス) はありません。

Split Mode - スプリットモードは、モノラル・プラグインが少なくとも 1 つのハードウェアチャンネルに接続されている場合にアクティブになります。このモードでは、A / B とバイパスはチャンネルごとに完全に独立して動作します。

このモードでは、2 つのモノラルソース (例：キックとスネアなど) の処理に最適なデュアルモノ・オペレーションが可能です。このモードでは、各チャンネルを完全に別々のハードウェア・ユニットとして扱うことができます。

チャンネルモードの説明

Unlinked mode - このモードでは、LEFT / MID と RIGHT / SIDE チャンネルが完全に独立して動作します。このモードでパラメータ値を変更するには以下のように行います。

・フロントパネルから操作する - チャンネルを選択し、パラメータを変更します。選択されたチャンネル構成のみが影響を受けます。

・ステレオ・プラグインを使用する - 各チャンネルに簡単にアクセスできます。

・Mono Plugin を使用する - モノ・プラグインは、現在接続されているチャンネルのみを変更することができます。

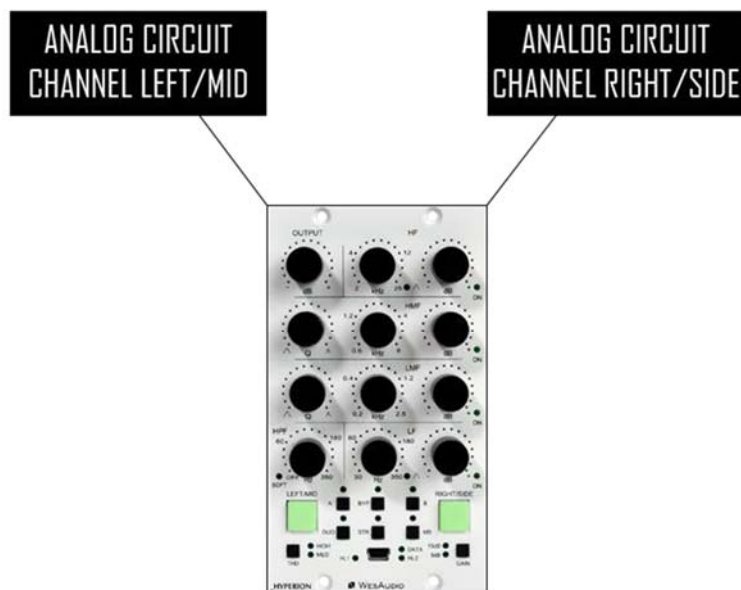
SW Linked mode - ステレオ・プラグインのステレオ・モードでのみアクティブになります。このモードでは、両方のチャンネルが相対的にリンクされます（詳細は「ステレオ・オペレーション時の操作について」の章を参照ください）。

Unlinked mode/SW Linked mode - この動作は、MSモードでのみ使用できます。MSモードをアクティブにすると、デフォルトで両方のチャンネル（MID と SIDE）のリンクが解除されます。ただし、「チャンネルリンクボタン」（下図）を有効にすることで、いつでもそれらのチャンネルをリンクすることができます。これは、両方のチャンネルの設定を同時に変更したい場合や、バンドバイパス・ボタンを切り替えて変更を確認する場合に便利です。



ステレオ・オペレーション時の操作について

ユニットがスタンドアローン・モードで動作している場合と、プラグインに接続されている場合の「ステレオ・オペレーション」には若干の違いがあります。これは、前の章で説明しましたが、さらに明確にするために、以下の説明を確認してください。

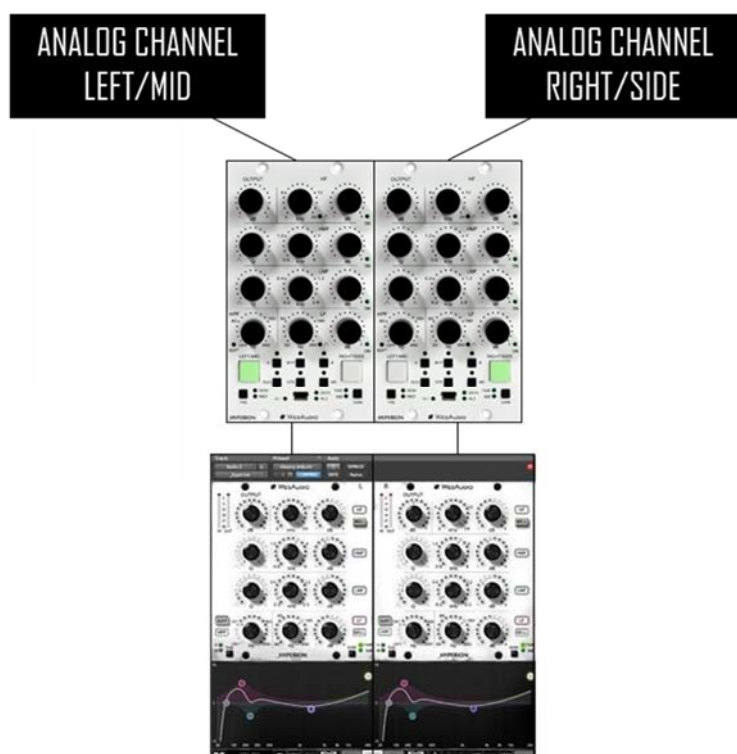


スタンドアローン・モードでの、「ステレオ・オペレーション」は、次のように動作します。

現在、表示/選択されているチャンネルは、両方のアナログ回路を制御するマスターチャンネルになります。ステレオモードにすると、両方のチャンネルボタンがアクティブになります。ただし、アナログ回路の制御だけが複製されるため、内部ユニットメモリはマスターチャンネル用によってのみ更新されます。

API500シリーズの小さな筐体に対応するため、_HYPERIONのパラメータはチャンネルを切り替えることによってユーザビリティを高めています。操作に慣れてしまえば直感的な作業ができるようになるでしょう。

以下の図は、プラグイン・コントロールによるステレオ・オペレーションを示しています。



この場合、両方のチャンネルは完全に独立していますが、このケースでは、ステレオモードがアクティブな場合、両方のチャンネルも相対的にリンクされています。ほとんどの場合、各サイドのパラメータは正確に同じ位置になりますが、プラグインの制御ではいつでもそれらのチャンネルのリンクを解除できます。ステレオモードでの各パラメータの変更よりも、それぞれが相対的に変化します。

例をあげて説明してみましょう。

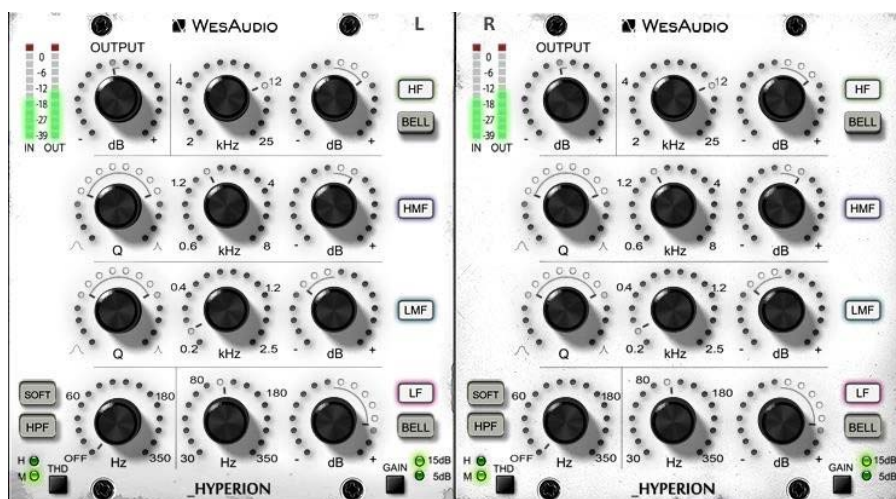
- チャンネルLEFT / MIDの HF Gainは0、チャンネルRIGHT / SIDEの HF Gainは0です。
- デュアル・モノ・モードが使用されています。
- チャンネルLEFT / MID のHF Gainが3に設定した場合、デュアル・モノ・モードで変更が行われたため、RIGHT / SIDEの HF Gainチャンネルは0のままです。
- この状態でステレオ・モードを有効にします。
- チャンネルLEFT / MID のHF Gainを0に戻すと、チャンネルRIGHT / SIDEの HFが-3に変化します。これらのパラメータは相対的にリンクされています。
- チャンネルを互いにコピーするには、プラグイン・ウィンドウの下部にあるボタンを使用するだけです。

_HYPERIONはアナログ・ユニットです。アナログの世界では全てがデジタルのように完璧ではありませんので、この機能を利用すればアナログチェーンの相違をととても簡単に補うことができるでしょう。

メーターについて

_HYPERION は、2つの異なるメータリングシステムを実装しています。

- フロントパネルのクリップ検出 - IN または OUT のいずれかでクリップが検出されるたびに、チャンネルボタンが瞬間的に赤く光ります。
- IN/OUT の VU、およびプラグインでのクリップ検出 - プラグインがハードウェア (ペア) に接続されると、現在の VU レベルに関する情報が送信されます。クリップが検出されると、クリップ LED インジケーターが IN/OUT 別々にプラグイン上に表示されます。クリップ状態の LED 表示数秒間保持されますが、クリックすると解除されます。



ソフトウェア

ソフトウェアパッケージは、

<http://www.wesaudio.com/download>

から常に最新のバージョンがダウンロードできます。

現在サポートされているプラグインの種類とプラットフォームを確認するには、上記のリンクをクリックしてください。

Windows OS

インストーラ・アプリケーションを起動します。このインストーラに関するシステム警告がOSから表示された場合は、「無視する」を選択して、インストールするコンポーネントを選択してください。

- これが最初のインストールの場合は、すべてのWesAudioデバイスをワークステーションから取り外してください(USBケーブルを接続しない状態でインストールしてください)。
- USBドライバがインストールされると、アプリケーションから、すべてのデバイスを接続する必要があることが通知されますので (USBケーブルを) 接続してください。
- USBドライバのインストールがトリガーされると、OSコンピュータをから再起動するように求められます。
- コンピュータの再起動がされてから、このインストーラは起動時に再起動します。再起動後に何らかの理由でインストーラが起動しない場合は、同じインストーラを手動で再起動してください。

Mac OSX

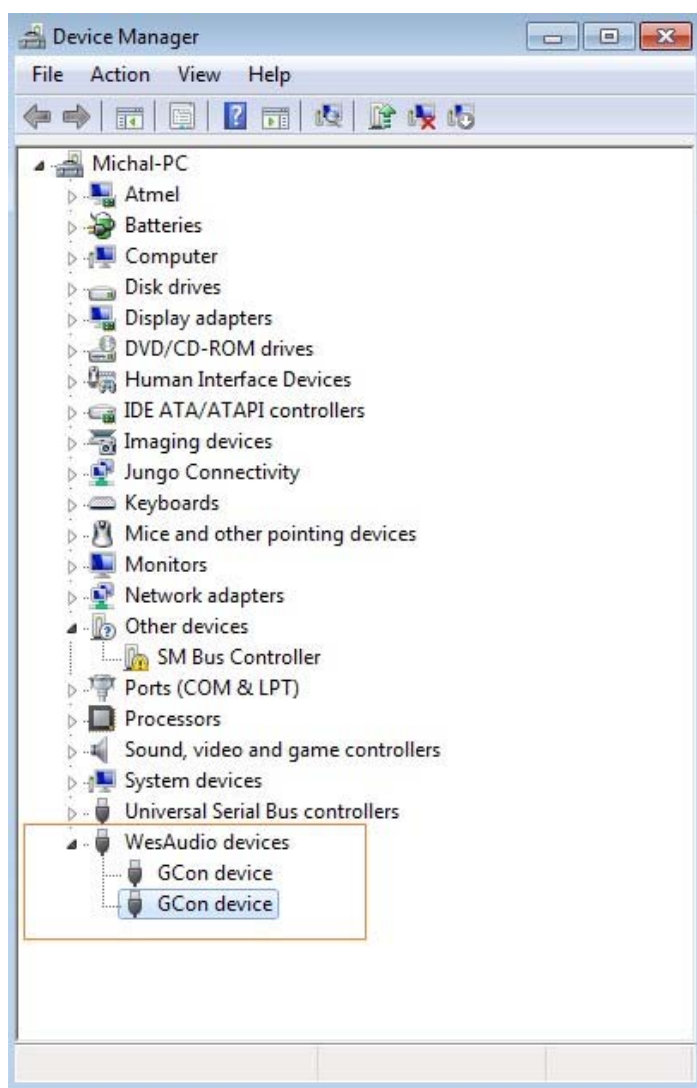
OSXとUSBデバイスのハンドリングはシンプルなので、インストール手順中にすべてのデバイスを接続しておいて構いません。インストーラ・アプリケーションを起動します。このインストーラに関するシステム警告がOSから表示される場合は、「無視する」を選択してください。

トラブルシューティング

Q: 「プラグインのドロップダウンメニューでデバイスを見つけることができません」

A: 残念ながら、OS上の様々な原因が存在する可能性があります。 Windowsマシンでは、USBデバイスがシステムレベルで正常に接続されているかどうかを確認することが非常に重要です。

これは「コントロールパネル ->システム - デバイスマネージャ」で確認できます。



** WINDOWSの場合、HWユニットとの通信に不可欠なUSBドライバをインストールする必要があります。最初のインストール時にのみ必要な手順です。このオプションは、ソフトウェアのアップグレード中は自動的に無効になります。

プラグイン

_HYPERIONユニットは、専用プラグイン（_HYPERION）とGConBlackBoxの2種類のプラグインで管理することができます。

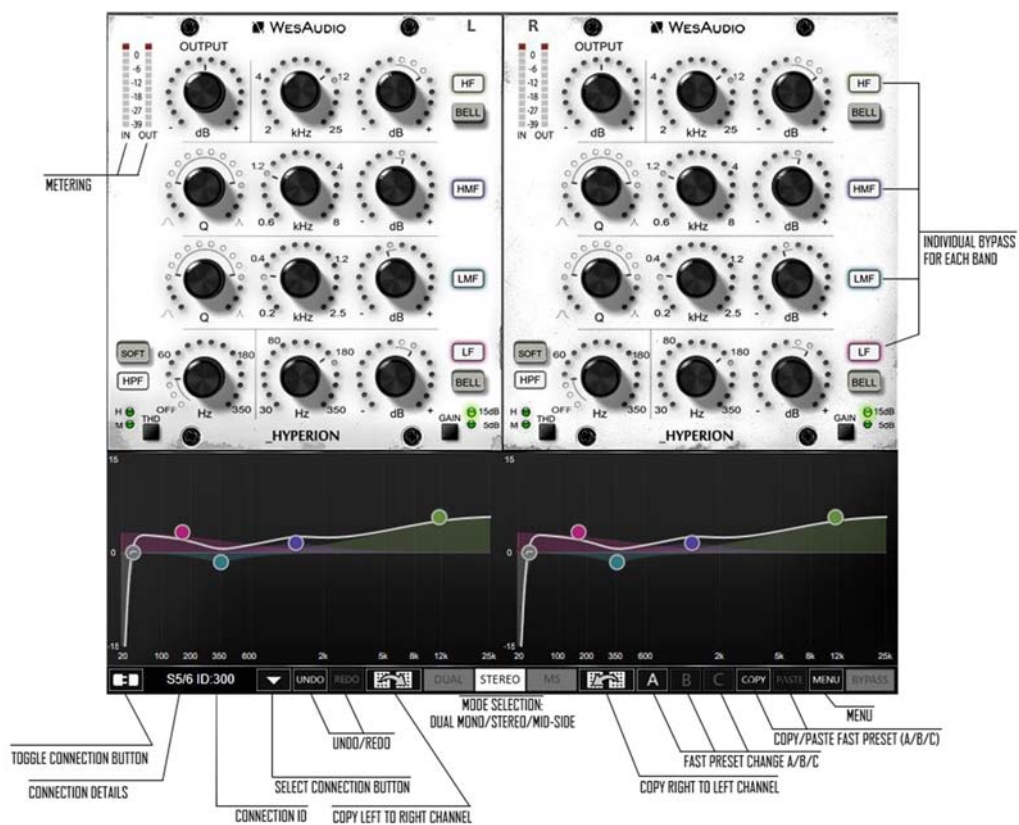
_HYPERIONプラグインのタイプ

2つのプラグイン・タイプがあります。

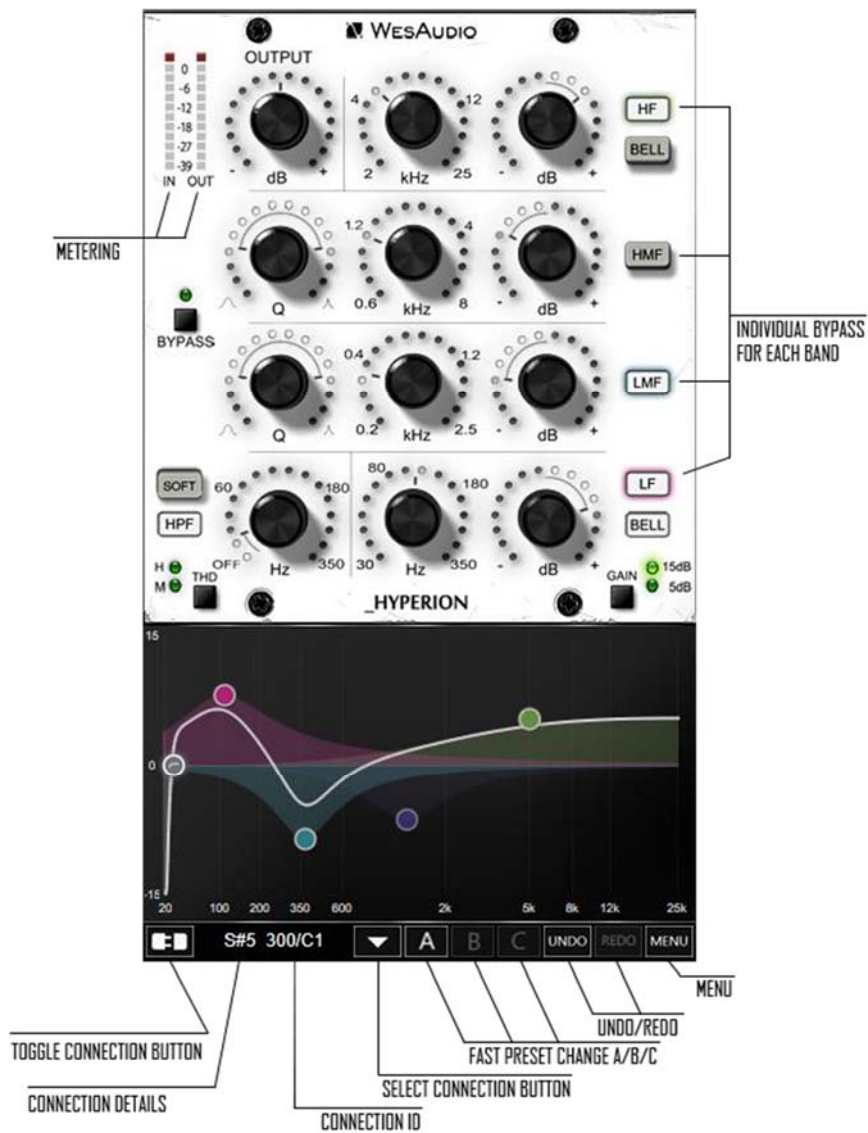
•**ステレオ・プラグイン**は、2チャンネルのフルコントロールを装備しています。このモードは、モノラル、ステレオ、MSオペレーションをサポートしています。

•**モノ・プラグイン**は1つのチャンネルに接続します（2つのプラグイン・インスタンスは1つのハードウェアユニットに接続できます）。このオペレーションでは例えば、1つのチャンネルがキックを処理し、2つ目がスネアのように「デュアルモノ」での使用も可能になります。。このモードでは、各ハードウェアチャンネルは別々のモノユニットとして機能します。

_HYPERIONプラグイン（ステレオ）



_HYPERIONプラグイン (モノ)



_HYPERIONプラグインのストラクチャー

- 1) **" Select connection button "** : ハードウェアごとのIDが「ドロップダウン」メニューリストに表示されています。表示されていない場合はGConプロトコルをサポートするデバイスが検出されていないことを意味しています。
- 2) **" Toggle connection button "** : 接続状態のオン/オフを切り替えます。ハードウェアごとのIDが正しく選択されていない場合は機能しません。

3) "**Connection details**" :追加の接続情報 :が表示されています

a. **USB** - モジュールがフロントパネルのUSB端子に直接接続されている状態です。

b. **S#X** - WesAudioのng対応_Titanフレームを使用した場合にはUSBケーブル一本で複数のng500対応モジュールを送信コントロール可能です。モジュールとフレーム間の内部接続プロトコルのスロット番号がその場合には表示されます。

また、このフィールドには、接続ステータスも表示されます。

c. **ON** - フォントの色が白色の場合は接続が確立されています。

d. **OFF** - フォントの色がグレーの場合は接続が確立されていません。

e. **CONNECTING FONT GRAY/Style:ITALIC** - フォントの色がグレーで、文字がイタリック体になっているときは、接続プロセスが進行中であることを示しています。「接続中」の状態が長時間（5秒以上）表示され、プラグインがユニットを制御できない場合は、再度接続を試みてください。

4) "**Connection ID**" : 接続されたモジュールの固有IDです。

5) "**Fast preset change (A/B/C)**" : 使用可能なA / B / Cのプリセットを瞬時に切り替えできます。このプリセットは接続関連のパラメータは切り替えません。つまり、接続IDは使用可能なすべての設定（A / B / C）間で共有され、いずれかのボタンがヒットした場合も変更されません。

6) "**Undo**" : 最後のパラメータ変更を元に戻すアンドゥボタンです（最大 20 の作業をアンドゥできます）。セットアップ・チェンジ・ボタン(A/B/C)を変更する現在の履歴はクリアされます。

7) "**Redo**" : 最後のパラメータ変更をやり直すリドゥボタンです（最大 20 の作業をリドゥできます）。セットアップ・チェンジ・ボタン(A/B/C)を変更する現在の履歴はクリアされます。

8) "**Metering**" : INとOUTにチャンネルのメータステータスを表示します。MSモード時のメーターリングでは、それぞれMIDとSIDEチャンネルのステータスが表示されます

9) "**Mode selection**" : ユニット動作モードを選択します。

a. **Dual Mono**

b. **Stereo**

c. **Mid-Side**

- 10) **" Copy left channel to right channel"** : 左チャンネルを右チャンネルにコピー。このボタンは、すべてのパラメータを左 (MID) から右 (SIDE) チャンネルにコピーします。
- 11) **" Copy right channel to left channel"** : 右チャンネルを左チャンネルにコピー。このボタンは、すべてのパラメータを右 (SIDE) から左 (MID) チャンネルにコピーします。
- 12) **" Copy/Paste fast preset (A/B/C)"** : プリセット (A / B / C) のコピー/ペースト。現在アクティブなプリセットをコピーして内蔵プラグインメモリに保存します。別のプリセットを選択してペーストして保存できます。
- 13) **" Individual bypass for each band"** : 各バンドの個別バイパス。各バンド (HF、HMF、LMF、LF、HPF) は、専用のスイッチを使用して独立してバイパスすることができます。
- 14) **" Menu"** :
 - a. すべてのプラグインのパラメータをデフォルト状態に設定します。

GCon BlackBoxプラグイン

WesAudioのNG500で使用されているGConプロトコルは、オープンフレームワークで、将来的にはサードパーティー社製の製品参入もプランされています。このGConBlackBoxプラグインは、主にサードパーティーのGConプロトコルを実装したハードウェアが、このプラグインを使用して設定のリコールを行える意図で開発されています。**WesAudio製品をご使用になる場合は専用のプラグインがございますので、そちらをご利用ください。**

GConBlackBoxプラグインは、どこのトラックやAUXに使用しても、すべての接続されているGConハードウェアを自動認識し（専用のプラグインをすでにトラック上に使用している場合はGConBlackBoxからは認識されません）、その台数はプラグインのメーターに表示されます。1個のプラグインを設定するだけで、すべてのGConハードウェアの設定を読み取りセッションに保存できますので、大量のGConハードウェアを使用する場合で、プラグインからはハードウェア操作のリコールだけを行いたい場合には便利に使用できます。

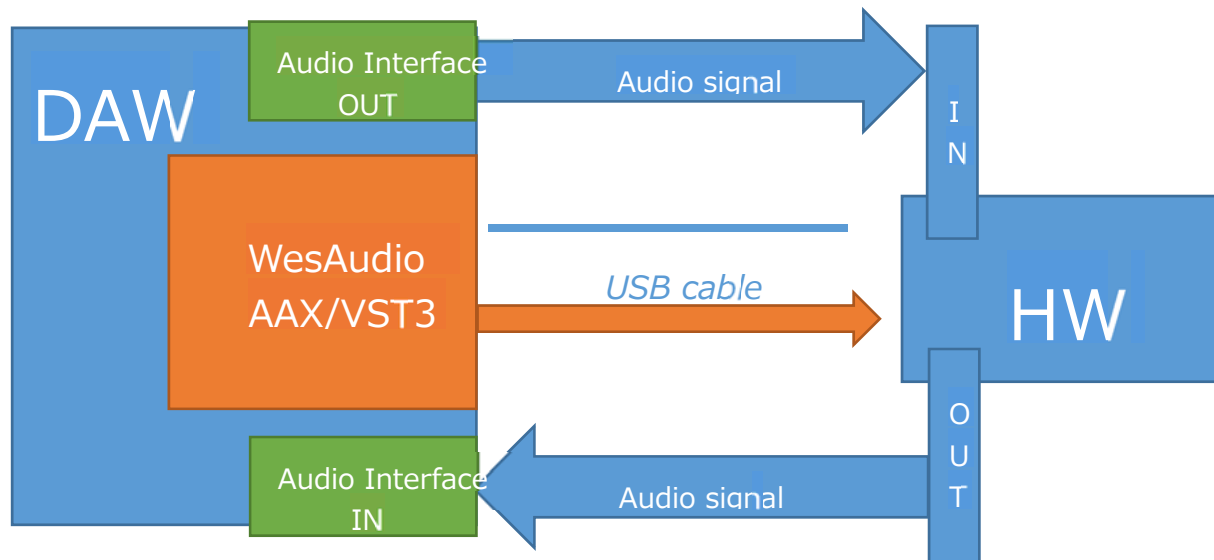
設定を変更すると左側のデザインが光るように反応し、右側のスイッチでオフにできます。



ミキシングのためのセットアップ

ハードウェア・インサートと外部エフェクト

DAW内のWesAudioデバイスで作業する場合は、HWユニットにオーディオ信号を送信する必要があります。以下では、そのプロセスを詳しく説明しています。



1) デバイス・コントロールの設定 :

- a. USBケーブルとUSB 2.0+ポートを使用してワークステーションをハードウェアユニットまたは_Titanラックフレームに接続します。
- b. ハードウェアと一致するトラックにWesAudioプラグインをインサートし、ドロップダウンリストからデバイスを選択します。
 - c. 接続状態 "ON"が点灯すればデバイスは準備完了です。セッションのアクティビティを保存すると、すべての設定がそのまま保存されます。

2) デバイスのオーディオ設定

- a. DAWでサポートされている任意のタイプの外部エフェクト（例えば、Cubase / Nuendoの「External effect」、Pro Toolsの「Hardware Insert」など）を作成します。
- b. WesAudio HWユニットINに"Send "を設定します。
- c. WesAudio HWユニットのOUTに "Return"を設定します。
- d. オーディオインターフェイスとユニットのIN / OUTを接続します。
- e. WesAudioプラグインを挿入した後にこのエフェクトを挿入します。

ダイレクト・アウトプット

WesAudioデバイスとプラグイン管理のマネージメント機能は、アナログ信号とデジタル制御の利点だけを融合する「ハイブリッド・ミキシング」のパーフェクトなソリューションです。

- 1) ワークステーションのUSB経由で、または_TitanラックフレームのUSB経由で接続。
- 2) HWと一致するトラックWesAudioプラグインを挿入し、ドロップダウンリストからデバイスを選択。
- 3) WesAudioデバイスにルーティングするオーディオインタフェース出力にトラック/ AUX出力を設定。

これでアナログ信号のピュアな音質のまま、デジタルドメインのオートメーションとリコール機能を活用することができます！

****注意：**正式にサポートされているインターフェイスは**USB 2.0**です。USBハブやお使いの機器がUSB2.0対応であることをご確認ください。

メモリー

パラメータのメモリーについては、次のように要約できます。

- _HYPERIONユニットには、2つの独立した瞬時に呼び出し可能なプリセットがあり、A / Bボタンでトリガーできます。
- _HYPERIONプラグインには、各プリセットが3つのインスタント設定変更（A / B / C - 高速プリセット）を含むことができる場合、無制限の設定を保存できます。

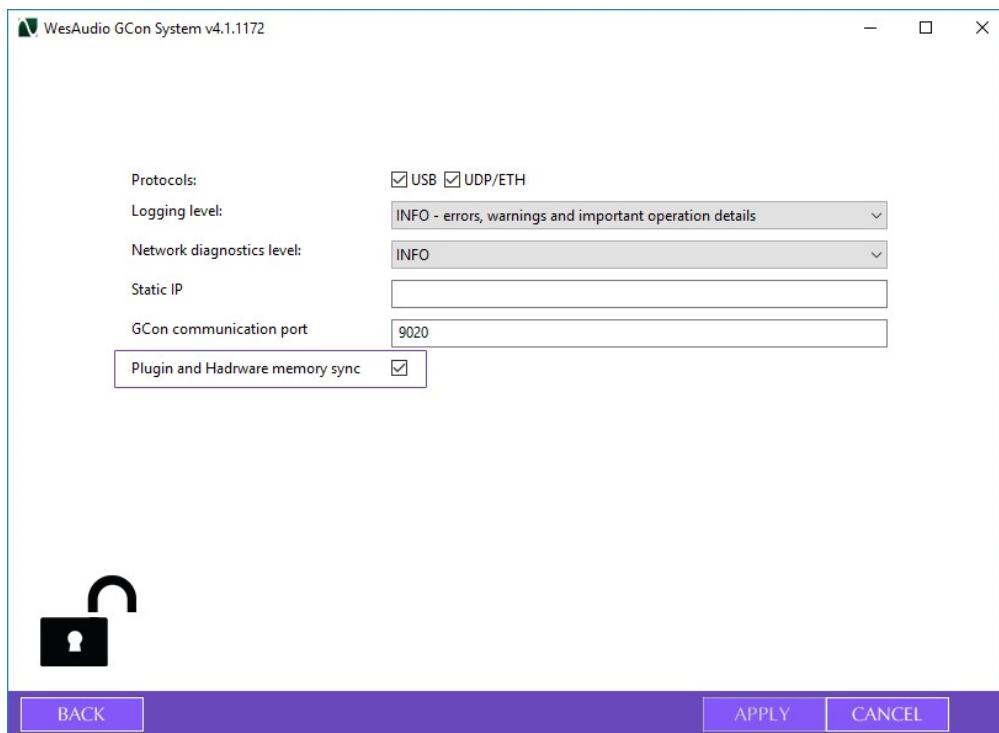
接続時の同期について

新しいプラグイン・インスタンスがDAWにロードされると、その状態はすぐにはパラメータ変更されません。ユーザーがConnection IDを設定してハードウェアユニットへの接続を開始すると、プラグインは利用可能なプリセットを含め、ユニットから現在のパラメータの状態をダウンロードします。たとえば、_HYPERIONプラグインと_HYPERIONハードウェア間の接続がトリガーされ、プラグインが変更されていない状態になると、_PRESET_Aと_PRESET_Bの状態を含め、すべてのパラメータ状態がプラグインにダウンロードされます。

プラグインとハードウェア間のメモリ同期

一般に、2つのモードによるオペレーションがあります。

GConManager / _SETTINGSアプリケーションで同期を有効または無効にします。



・同期メモリー：有効

これは、“Plugin and Hardware memory sync”オプションにチェックが入って有効になっているデフォルトの設定で、ユニットとプラグインのメモリを直接リンクします。この場合、プラグインがハードウェアに接続されている場合、ユニットが保存できる高速プリセットの数（A / Bなど）を含むすべてのパラメータが同期されます。プラグインが切断されても（手動トグルボタンヒット、DAWセッションクローズなど）、すべてのハードウェア構成は変更されません。

・同期メモリー：無効

これは、“Plugin and Hardware memory sync”オプションにチェックが入っておらず、無効になっている設定です。HWユニットがプラグインで動作するように接続されている場合、プラグインのすべての設定がデバイス（またはハードウェアからプラグイン）に適用されますが、プラグインが切断されると、ユニットの設定は元の状態に戻ります（トグルボタンやセッション終了時など）。実際にはHWユニットの内部メモリは、ソフトウェアの影響を全く受けません。この機能は、ユーザーが異なるモードを頻繁に切り替える必要がある場合、例としてあげれば、セッションをリコールする必要があるが、現状セッションがロードされていない状態でユニットが使用中である場合などに便利です（セッション単位でユニットを簡単に呼び出すことができ、ユニットはリコールが発生した前の状態に戻ることができます）。

オートメーション

WesAudioデバイスは、DAWからトリガーされるオートメーションにとても高精度に同期することができます。

ステレオ・プラグインでのオートメーション

ステレオプラグイン（STEREOモード、またはチャンネルがリンクされているMSモード）を使用してチャンネルがリンクされている場合は、1つのチャンネルだけをオートメーションすれば、それに応じて2つ目のチャンネルがオートメーションされます。両方のチャンネルをオートメーション化してしまうと、各チャンネルはもう一方のチャンネルを常にアップデートしようとするので、予期せぬ結果につながりますのでご注意ください。

オートメーション・レコード

通常のソフトウェア書き込みのオートメーションに加えて、ハードウェア側のタッチセンシティブ・ノブからオートメーションを記録することも可能です。DAWでオートメーション・レコードを有効にし、HWノブを動かすだけです！チャンネルがリンクされている場合は、1つのチャンネル・オートメーションのみを記録してください。

PRO TOOLSとの統合

ソフトウェア・リリース2.1以降、WesAudioプラグインはすべてのパワフルな機能を使用してPro Toolsと統合されています。

- PT10 のミキサービューまたは編集ビューからのバイパスモードは実際のハードウェアをバイパスさせることができます。
- プラグイン・インスタンスを「非アクティブ」にすると、プラグインが強制的にアンロードされ、プラグインもハードウェアから切断されます。
- PT12 + - Pro Toolsの新しいコミット機能はWesAudioプラグインと互換性があります。HW InsertとWesAudioプラグインのコミットがトリガーされると、プラグインはソースから切断され、すべての設定を保存します。その結果、次のようになります。
 - ・アナログプロセッサを介してプリントされたトラック、
 - ・プラグイン・インスタンスを介して非アクティブトラックに保存されたハードウェア設定、
 - ・新しいプラグイン・インスタンスを使用して、異なるトラック上の同じハードウェアに接続することができる
 - ・非アクティブトラックはいつでも有効にすることができ、WesAudioプラグインはハードウェアに再接続して自動的にすべての設定を復元します。ハードウェアには同時に接続することができます。

マルチホストのサポート

ダイレクトにフロントパネルにUSBケーブルで接続されたデバイスは、同時に1つのHOSTアプリケーションで検出されます。WesAudioプラグインを起動する最初のHOSTアプリケーションはGCon通信エンジンを有効にしマスターとして機能します。マスターアプリケーションは利用可能なすべてのWesAudioユニットを開き、通信するためにすべてのデバイスハンドルを保持します。そのアクティビティは、同時に開始された他のHOSTアプリケーションが直接USB接続を使用してWesAudioユニットと通信するのを防いでいます。このような状況は、2つの異なるホストが同時に起動され、ReWireインターフェイス経由などで接続されている場合に実際に発生する可能性があります。その場合には、1つのホストのみがWesAudio製品のプラグインホストとして機能します。

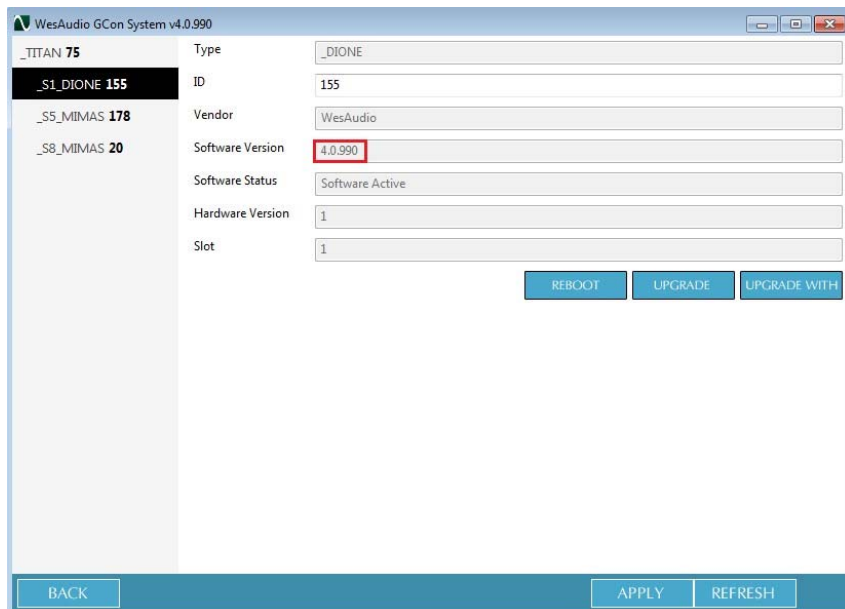
GCon Manager

GCon Managerは、GCon互換ユニットに対してのマネージメントを行うことのできる汎用アプリケーションです。アプリケーションフォルダのデータ内にあります。

- OSXの場合 : `"/ Applications / WesAudio / GConManager"`
- WINDOWS : インストール段階で指定されたフォルダ。デフォルトでは `"c : / Program Files x86 / WesAudio / GConManager.exe"`にあります。

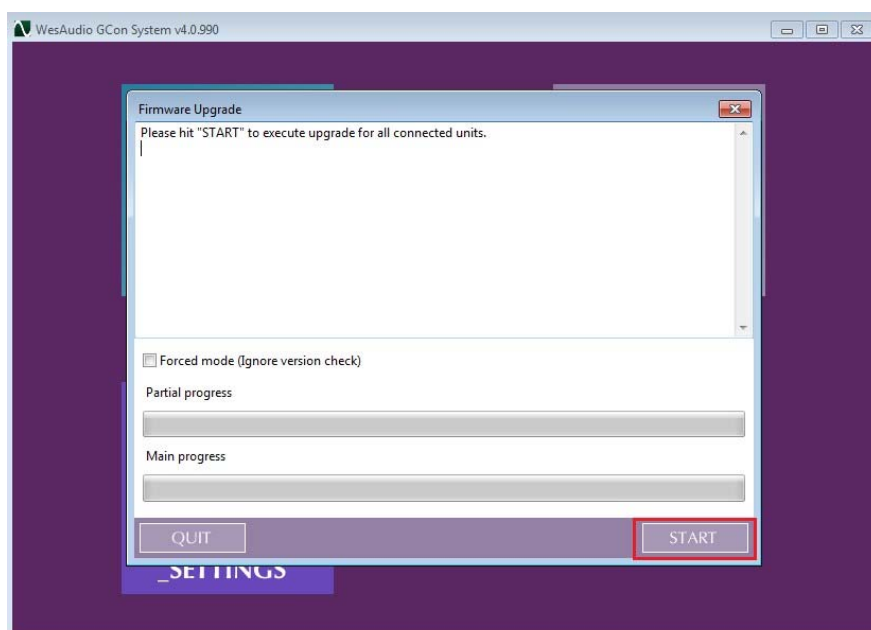
ファームウェア・アップグレード

ファームウェアのアップグレードは、GCon Manager CONFIGアプリケーションで確認できます。



ファームウェア・アップグレードの実行

ファームウェアのアップグレードは、GCon Manager CONFIGアプリケーションでUpgradeをへと進み、STARTボタンを押すことで実行できます。これにより、ホストソフトウェア上で最新でない、すべてのモジュールのアップグレード操作がトリガーされます。



本書における略語と用語説明

- ・ GCon - アナログ通信機器の完全なマネージメントとリコールを可能にする高速通信プロトコル。
*オーディオ信号の転送機能ではありません
- ・ ng500 - 次世代API500シリーズの規格（New Generation 500の略）
- ・ ng500コネクタ - 標準のAPI500シリーズ互換コネクタを、追加ピンで拡張した特別なコネクタです。

www.umbrella-company.jp

* この取扱説明書は株式会社アンブレラカンパニーが正規に販売する製品専用のオリジナル制作物です。
無断での利用、配布、複製などを固く禁じます。